O を原点とする xyz 空間において、点 P と点 Q は次の 3 つの条件 (a), (b), (c) を満たしている.

- (a) 点 P は x 軸上にある.
- (b) 点 Q は yz 平面上にある.
- (c) 線分 OP と線分 OQ の長さの和は1である.

点 P と点 Q が条件 (a), (b), (c) を満たしながらくまなく動くとき、線分 PQ が通過してできる立体の体積を求めよ.

(23 京都大 理系 5)

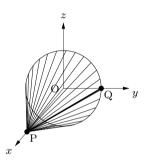
【答】 $\frac{2\pi}{15}$

【解答】

まず,点 P を固定する. (a) より P の座標を (t, 0, 0) とおくことができる. (c) より

$$\begin{aligned} \text{OP} + \text{OQ} &= 1 \\ \therefore \quad \text{OQ} &= 1 - \text{OP} \\ &= 1 - |t| \; (-1 \le t \le 1) \end{aligned}$$

である. (b) もあわせると,点 Q は yz 平面上で原点 O を中心とする半径 1-|t| の円周を描く.このとき,線分 PQ が通過してできる曲面は,P を頂点し OP を軸とする直円錐の側面である.点 Q を y 軸上の点 (0, 1-|t|, 0) としてもよい.



ついで,P を $-1 \le t \le 1$ の範囲で動かすと,P が x 軸上,Q が y 軸上を動き線分 PQ の通過領域ができる.この領域を x 軸のまわりに 1 回転させてできる立体が,題意の立体である.線分 PQ の通過領域は x 軸,y 軸に関して対称であるから,領域

$$0 \le x \le 1$$
 かつ $0 \le y \le 1$ ····· (*)

で考えることにする.このときの線分 PQ の通過領域 D を x 軸のまわりに回転させてできる立体の体積の 2 倍が求める体積である.

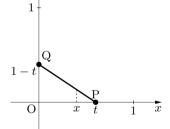
xy 平面上でに点 P の座標を (t, 0) $(0 \le t \le 1)$ とおくと, 点 Q の座標は (0, 1-t) であり, 直線 PQ の方程式は

$$t=0$$
 のとき $x=0$
$$0 < t \le 1$$
 のとき $y = \frac{t-1}{t}x + 1 - t$

となる. 線分 PQ の通過領域 D は、「原点 O(0, 0) と点 (0, 1) を結ぶ線分」と「線分 PQ $(0 \le x \le t)$ の通過領域」の和集合である.

 $0 < t \le 1$ のときの線分 PQ の通過領域を求める.

まず、x を $0 \le x \le 1$ で固定すると、t は $x \le t \le 1$ の範囲で動く、このときの y のとりうる値の範囲を求める.



y

 $t \neq 0$ であり、t が $x \leq t \leq 1$ の範囲で動くことから、x = 0, $x \neq 0$ の場合分けをする.

- (i) x=0 のとき, y=1-t であり, $0 < t \le 1$ であるから $0 \le y < 1$ である. これは「原点 $O(0,\ 0)$ と点 $(0,\ 1)$ を結ぶ線分」に含まれる.
- (ii) $x \neq 0$ のとき

$$f(t) = \frac{t-1}{t}x + 1 - t \ (x \le t \le 1)$$

とおく、x < t < 1 のとき

$$f'(t) = \frac{1 \cdot t - (t - 1) \cdot 1}{t^2} x - 1$$
$$= \frac{x - t^2}{t^2}$$

	t	x		\sqrt{x}		1
f'	'(t)		+	0	_	
f	(t)	0	1		/	0

である. f(x) の増減は右表となる. ここで,極大値は

$$f(\sqrt{x}) = \frac{\sqrt{x} - 1}{\sqrt{x}}x + 1 - \sqrt{x}$$
$$= (\sqrt{x} - 1)\sqrt{x} + 1 - \sqrt{x}$$
$$= (1 - \sqrt{x})^2$$

である. $y=f(\sqrt{x})$ について $f(\sqrt{0})=1$, $f(\sqrt{1})=0$ となることから, (i), (ii) あわせた線分 PQ の通過領域は

$$0 \le y \le f(\sqrt{x}) \ (0 \le x \le 1)$$

であり、これは線分 PQ の通過領域 D でもある. 立体は yz 平面に関して対称なので、求める体積 V は

$$V = 2 \times \int_0^1 \pi \{ (1 - \sqrt{x})^2 \}^2 dx$$
$$= 2\pi \int_0^1 (1 - \sqrt{x})^4 dx$$

ここで、 $u=1-\sqrt{x}$ とおくと

$$x = (1 - u)^{2}$$
 $dx = 2(1 - u)(-1) du$ $x \mid 0 \longrightarrow 1$ $u \mid 1 \longrightarrow 0$

なので

$$V = 2\pi \int_{1}^{0} u^{4} \cdot 2(1-u)(-1) du$$

$$= 4\pi \int_{0}^{1} (u^{4} - u^{5}) du$$

$$= 4\pi \left[\frac{1}{5} u^{5} - \frac{1}{6} u^{6} \right]_{0}^{1}$$

$$= 4\pi \left(\frac{1}{5} - \frac{1}{6} \right)$$

$$= \frac{2\pi}{15}$$
.....(答)

である.

•
$$\begin{cases} t = 0 \text{ のとき} & x = 0 \\ 0 < t \le 1 \text{ のとき} & y = \frac{t-1}{t}x + 1 - t \end{cases}$$

で表される直線 PQ の方程式は

$$(1-t)x + ty + t(t-1) = 0$$

としてまとめることができる.

t が $0 \le t \le 1$ の範囲を動くときの線分 PQ の通過領域は、領域

$$0 \le x \le 1$$
 かつ $0 \le y \le 1$ ····· (*)

のもとで t が $0 \le t \le 1$ の範囲を動くときの直線 (1-t)x+ty+t(t-1)=0 の通過領域である.それは

$$t^2 + (y - x - 1)t + x = 0 \qquad \cdots \quad \bigcirc$$

をみたす t が $0 \le t \le 1$ の範囲に少なくとも 1 つ存在するような点 (x, y) の集合である. $g(t) = t^2 + (y - x - 1)t + x$ おき,g(0)g(1)(= xy) の符号で場合分けする.

- (*) のもとでは、xy < 0 となることはないから
- (I) xy = 0 のとき
 - (i) x = 0 のとき

x=0 は条件を満たす.

(*) とあわせると、線分 x = 0 $(0 \le y \le 1)$ である.

(ii) y = 0 のとき

y=0 は条件を満たす.

(*) とあわせると、線分 y = 0 ($0 \le x \le 1$) である.

(II) xy > 0 のとき

⑦ を整理すると

(ウ)を整理すると

$$x - 1 \le y \le x + 1$$

(*), ①, ⑤, ⁽¹⁾ をまとめると

$$\begin{cases} 0 < x \le 1 \\ 0 < y \le (1 - \sqrt{x})^2 \end{cases}$$

よって、(*) のもとで、(I)、(II) をまとめると

$$0 \le y \le (1 - \sqrt{x})^2 \ (0 \le x \le 1)$$

となる.

直線族 {l_t} を

$$l_t: a(t)x + b(t)y + c(t) = 0 \qquad \cdots \qquad \textcircled{a}$$

の包絡線を求める. x, y を定数とみて, 辺々をtで微分した式を

$$a'(t)x + b'(t)y + c'(t) = 0$$
 b

とおくと、直線 $\{l_t\}$ の包絡線が存在するとき、それは「(a) かつ (b)」を満たす (a) が存在するような点 (x, y) の集合である (高校数学の範囲外).

本問では

$$l_t: (1-t)x + ty + t(t-1) = 0$$
 @

について, x, y を定数とみて, 辺々を t で微分すると

$$-x+y+2t-1=0 \qquad \cdots \qquad \underbrace{t=\frac{1+x-y}{2}}$$

であり、「(a) かつ (b)」を連立して得られる (x, y) の方程式

$$\left(1 - \frac{1 + x - y}{2}\right)x + \frac{1 + x - y}{2}y + \frac{1 + x - y}{2}\left(\frac{1 + x - y}{2} - 1\right) = 0$$

が l_t の包絡線である。式を整理すると

$$x - \frac{1+x-y}{2}(x-y+1) + \left(\frac{1+x-y}{2}\right)^2 = 0$$
$$x - \left(\frac{1+x-y}{2}\right)^2 = 0$$
$$\therefore 1 + x - y = \pm 2\sqrt{x}$$

$$\therefore \quad 1 + x - y = \pm 2\sqrt{x}$$
$$\therefore \quad y = (1 \mp \sqrt{x})^2$$

$$y = (1 + \sqrt{x})$$

 $y = (1 - \sqrt{x})^2$

である.